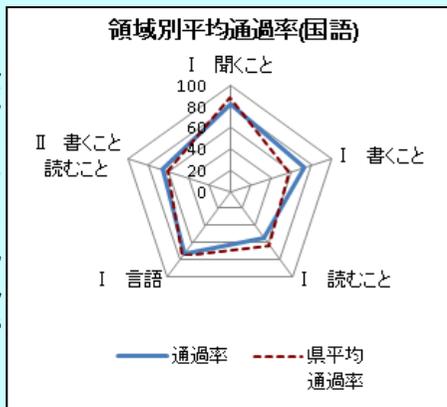
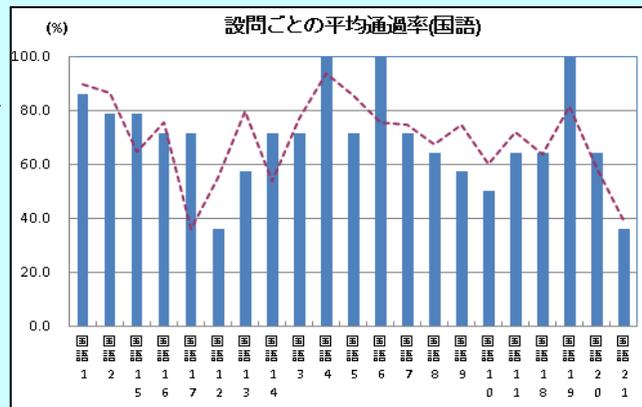


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 69.7%, 県 69.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において、タイプⅠは70.6%、タイプⅡは66.1%の通過率となっている。タイプⅠの「読むこと」の領域の通過率は82.2%であり、おおむね定着していると考えられる。一方、「読むこと」の領域の通過率は54.8%であり、文章から必要な事項を読み取って答えることに課題があると考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果・課題

昨年度は、複数の資料から情報を読み取り、条件に沿って文章化することに課題があり、説明文の発展教材として複数資料を読み取る取組をしたり、定期試験に類似問題を取り入れたりしてきたが、まだ十分に定着していない。

重点課題

【課題1】

○説明文を読み、段落相互の関係を把握し、文章の構成や展開をとらえること。
(通過率 35.7% 県平均 54.9%)

【課題2】

○複数の資料・情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。
(通過率 35.7% 県平均 38.9%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ① 学習の導入時に構成や段落の役割について復習し、ドリルなどで定着を図る。
- ② 内容を把握・理解させるために各段落を要約したり段落構成を図式化したりするなどの取組を充実させる。
- ③ 同様の文章を取り入れて授業に取組み、定期試験で類似問題を取り入れて定着を図る。

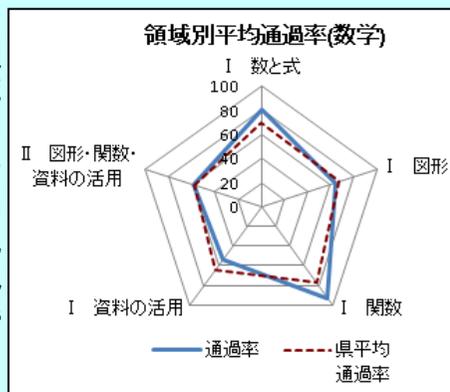
【課題2】

- ① 複数の資料や文章を用意し、比較させたり共通点を考えさせたりしてまとめる取組を行う。
- ② 長文教材での学習のときに、複数の条件を提示して自分の考えを記述させる取組の工夫と充実を図る。
- ③ 定期試験で複数の資料を用いて記述させる問題を継続して取り入れる。

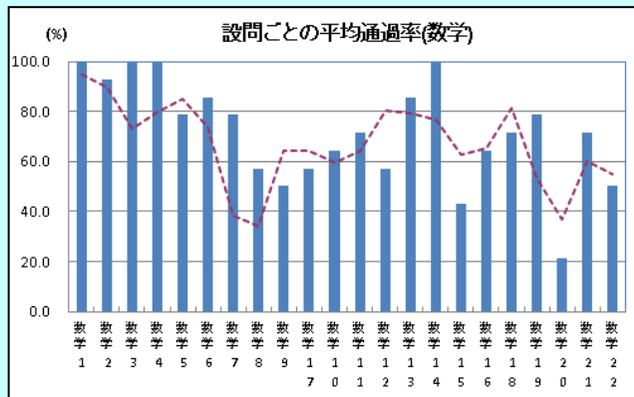
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生休み明けテスト	2年生中間試験		① 1年生期末試験 ② 2年生期末試験	① 1年生三次市学力到達度検査 ② 2年生三次市学力到達度検査		① 1年生学年末試験 ② 2年生学年末試験
目標値	40.0%	45.0%		①55.0% ②55.0%	①60.0% ②60.0%		①70.0% ②70.0%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生休み明けテスト	2年生中間試験		① 1年生期末試験 ② 2年生期末試験	① 1年生三次市学力到達度検査 ② 2年生三次市学力到達度検査		2年生学年末試験
目標値	40.0%	45.0%		①45.0% ②50.0%	①50.0% ②55.0%		60.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.8%, 県 66.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

通過率は、タイプⅠが 75.6%、タイプⅡが 58.6%である。領域別では、関数において 92.9%と高く、数と式においても 80.0%と定着が見られる。しかし、資料の活用では 53.6%と課題があるといえ、タイプⅡの記述式の問題では、正答率が 50%程度であり、さらに説明する力を身につけさせる必要がある。

○昨年度の課題への取組と成果と課題

昨年度は、資料のよみ取りや身近な事象を関数関係にとらえ表現する問題に課題があった。そこで、関数領域では身近な事象を多く扱い、資料の活用でも身近な事象についてのデータ分析等を行わせることで定着を図った。しかし、まだ半数の生徒に定着しておらず、今後も継続して指導していく必要がある。

重点課題

【課題 1】 事象の式の意味を正しくよみ取り、比例か反比例かを判断する問題に課題がある。選択問題ではあるが、57.1%が比例と間違えた判断をしている。

(通過率 21.4% 県平均 36.8%)

【課題 2】 ヒストグラムから中央値をよみ取る問題に課題がある。平均値、中央値、最頻値等のことばの意味を正しく理解していない生徒が多い。

(通過率 42.9% 県平均 62.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

重点課題を克服するために、各単元で前半は基礎的な内容をていねいにおさえ、後半では、既習事項が活用できるような課題や応用問題、思考問題を取り入れていく。また、身近な事象を扱い、実生活との関連も考えさせていく。

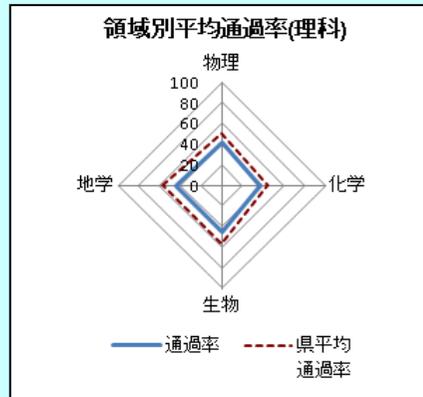
【課題 1】 身近な事象と関数を関連付けて考えさせる。式や表、グラフからどんな関数関係なのかを言わせていく。また、それらをよみ取らせ、説明できるようにさせる。

【課題 2】 言葉の意味をしっかりと押さえ、ヒストグラム等から求められるようにする。

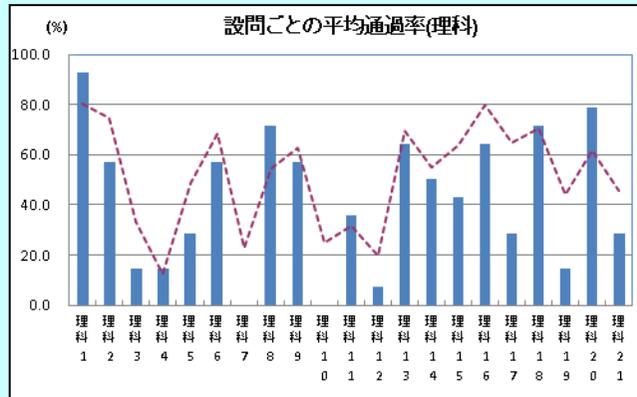
【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生夏休み明けテスト	2年生中間試験		①1年生期末試験 ②2年生期末試験	①1年生三次市学力到達度検査 ②1年生三次市学力到達度検査		①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値	45.0%	60.0%		①55.0% ②65.0%	①70.0% ②70.0%		①75.0% ②75.0%
実施後数値							
【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験	2年生冬休み明けテスト		①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%	70.0%		①70.0% ②75.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 41.8%, 県 51.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

通過率は、タイプⅠが48.8%、タイプⅡが32.5%である。領域別では、音の高さと振動数の関係に関する問題は92.9%と定着が見られる。しかし、再結晶について溶解度と関係付けて文章で答える問題では0%であり、実験や観察から考察をする際に、実験の目的を踏まえて自分の考えをまとめることや、理科の用語を使用して文章を構成する力に課題があると考えられる。

○昨年度の課題への取組と成果と課題

昨年度は、題意が読み取れていないことや、計算問題、起こった自然現象について文章化できないことに課題があった。そこで、フォローアップシートを活用し、既習事項の定着を図った。しかし、まだ十分に定着していない。

重点課題

【課題1】 グラフを正しくよみ取り、グラフからどのようなことが考えられるかを理科用語を用いて文章化すること。
(通過率 0.0% 県平均 22.6%)

【課題2】 マクロの世界で起きている現象を粒子としてイメージし、自然条件によって粒子の挙動がどのようになるのかをシミュレーションすること。
(通過率 0.0% 県平均 25.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ① 2つの数量関係を探究する際に、縦軸と横軸が何を表しているかを明確にさせてグラフを作成させる。
- ② 作成したグラフを基に、横軸の数量が決まると縦軸の数量はどのようになるかを読み取らせる。
- ③ グラフに関する問題を出題し、理科用語を用いて文章で答えさせる。

【課題2】

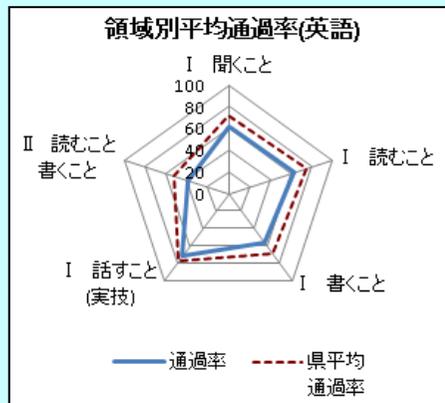
- ① 目に見ることのできない自然現象を可視化するために、モデル図などを書かせる。
- ② 書いた図が自然条件の変化によってどのように変化するかをイメージさせる。
- ③ 自然条件が変化した際に、物質や物体がどのようになるかという問題を出題する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		55.0%			①60.0% ②60.0%
実施後数値							

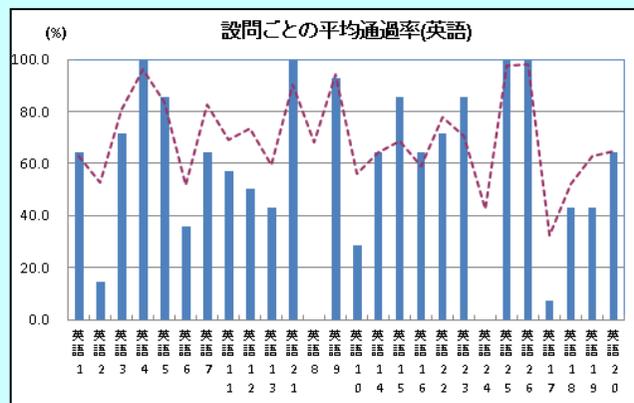
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生夏休み明けテスト	2年生中間試験		2年生期末試験	①1年生三次市学力到達度検査 ②1年生三次市学力到達度検査		①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値	45.0%	50.0%		55.0%	①60.0% ②60.0%		①65.0% ②65.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.1%, 県 69.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
タイプⅠにおいては 62.7%, タイプⅡにおいては 39.3%の通過率となっている。この結果から単独の領域についてはおおむね基礎・基本の定着が図られていると思われるが、一方でタイプⅡのような読むことと書くことを合わせた統合的な領域に関して課題があることがわかる。また、単独の領域であっても「書くこと」においては 56.0%と低く基本的な文のきまりを理解した作文に課題があった。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度は授業での帯活動を通して、既習事項を繰り返し復習することで、一定の定型文の定着が図られた。

重点課題

【課題1】

正しい語順を用いて、this+名詞+be 動詞+形容詞の文を構成する知識を必要とする問題に課題がある。特に this の形容詞的用法に課題があった。同様に、what の形容詞的用法にも課題が見られたため、形容詞+名詞の役割に課題があると思われる。
(通過率 0.0% 県平均 68.0%)

【課題2】

what 疑問文の問いに対して、適切に応答する問題に課題がある。特に、現在進行形に関する問題で、現在形で答えていたため、正しい時制の感覚を身に付ける必要がある。
(通過率 0.0% 県平均 42.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ①this や that には名詞や形容詞として使用されることがあることを再認識させ、名詞と形容詞の使い方について比較し、違いについて考えさせる。
- ②名詞と形容詞に特化した問題を解く練習をさせる。

【課題2】

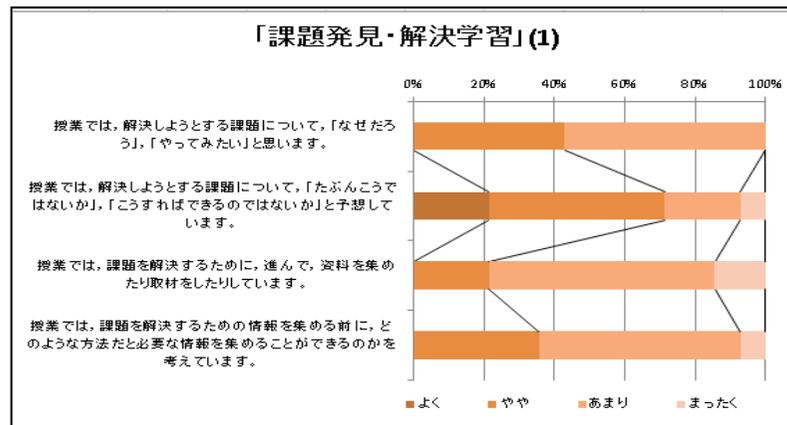
- ①繰り返し疑問詞の確認と練習をさせていく。
- ②現在進行形が使用されている場面を取り上げ、場面状況を考えさせる。
- ③時制について繰り返し確認し、さまざまな場面を取り上げ、どの時制を使えばよいかを考えさせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%			①70.0% ②70.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%			①70.0% ②70.0%
実施後数値							

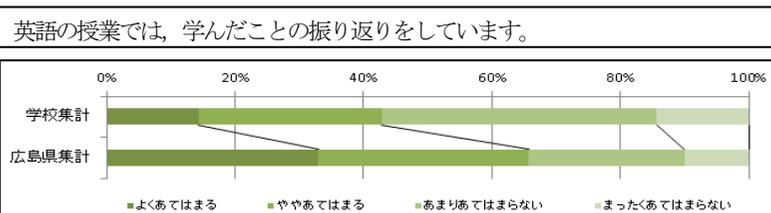
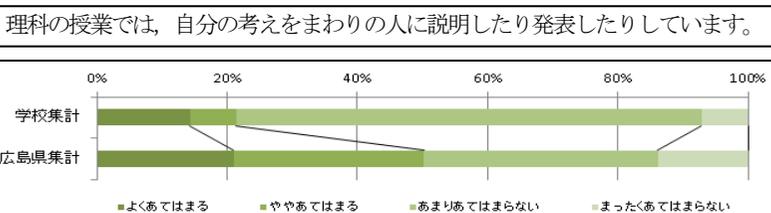
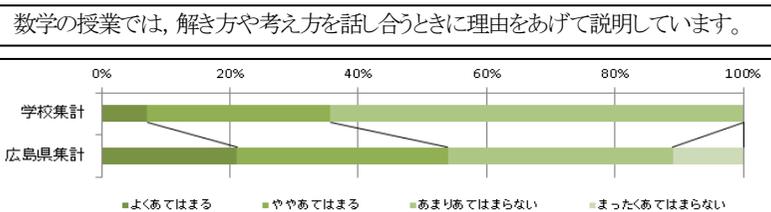
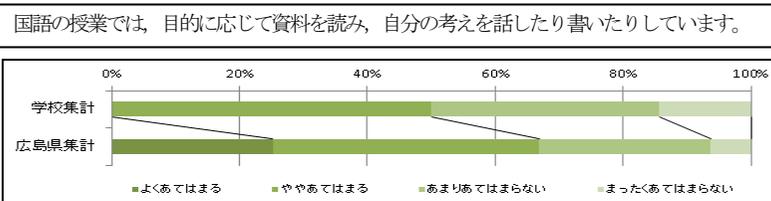
質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習



生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」についての肯定的な数値が21.4%と低い。 (県平均 38.3%)	①既習事項や前時のノートを活用した授業展開をする。 ②個人思考の時間の確保、集団思考等、主体的に活動する場面を設定する。	2	同一質問紙肯定的評価が50%以上	同一質問紙によるアンケート及び授業アンケート	① 1 2月 ② 3月	① ②	

(2) 教科



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
国語	国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしています。 (肯定的評価 50.0%) (県平均 66.8%)	① 長文教材や書くことの領域で、複数の資料から自分の考えを記述したり発表したりする学習を取り入れる。 ② 資料の読み取りでいくつかの条件を提示して目的を持って読ませる学習を取り入れる。	2	同一質問紙肯定的評価70%以上	授業アンケート 平成28年度生徒質問紙を活用	平成28年2月		
数学	数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。 (肯定的評価 35.7%) (県平均 54.0%)	①ペア学習、グループ学習を定期的に取り入れる。 ②プリントや宿題等に説明する問題を1題以上取り入れる。 ③定期試験で記述式を増やす。	2	同一質問紙肯定的評価60%以上	授業アンケート ※平成28年度生徒質問紙を活用	平成28年3月		
理科	理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。 (肯定的評価 21.4%) (県平均 50.2%)	①既習事項を活用した問題を出し、根拠をつけて説明させる。 ②実験・観察結果をもとに、それらの目的を踏まえてどのようなことが考えられるか考察する時間を設定する。	2	同一質問紙肯定的評価60%以上	授業アンケート ※平成28年度生徒質問紙を活用	平成28年3月		
英語	英語の授業では、学んだことの振り返りをしています。 (肯定的評価 42.9%) (県平均 65.8%)	①各授業の始めに既習事項を確認する問題を行う。 ②各単元や課題のまとめの時間を確保する。	2	同一質問紙肯定的評価60%以上	平成28年度広島県「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙	2学期末		